

語りから捉えた新任保育者の成長の契機

仲野 悦子 ・ 田中 まさ子

An opportunity of the growth of a new kindergarten teacher understanding by a questionnaire

Etsuko Nakano Masako Tanaka

Summary

In our study, child care support with meaning and growth of the kindergarten teacher were closely related, so we thought that support with meaning might be understood by clarifying the growth process of the kindergarten teacher. Through our investigation, we heard about the process that they graduated from a training school for kindergarten teachers and spent one year as a new kindergarten teacher and we wanted to investigate the growth of these kindergarten teachers as well as the most effective method of child care support. As for our results, most kindergarten teachers, had little knowledge of childcare and they tried various methods and were very stressed. Meanwhile, it is understood that the existence of children encouraged kindergarten teachers greatly but somewhat adversely.

Key word : Narrative approach New child care person Carrier development

はじめに

子育ち・子育て環境の変化にともなう幼児期教育の重視、子育て支援事業の法定化に対応した幼稚園及び保育所の社会的な役割の明確化など様々な背景から幼稚園教育要領・保育所保育指針が改訂され、平成21年4月より施行されることとなる。また、保育所保育指針の告示化や平成20年度より5か年計画として「保育所における質の向上のためのアクションプログラム」の通知などにもとない、免許・資格の向上に向けて保育者の質の向上が求められ、保育者の役割や責任がますます問われることになった。

具体的にみると、教育課程や保育課程など一連の計画による保育の構造化、施設長の責務や全職員の資質向上のための連携・協力、保育運営や内容の自己評価と第三者評価の実施、保護者との協働などがあげられる。このように今後の保育に関わる現場の課題は多く、施設の果たす役割とともに保育に携わっている者一人ひとりの意識の持ち方や取り組みが、子ども達の成長発達ばかりではなく子ども達を取り巻く大人側にも大きな影響を及ぼすことは周知のとおりである。

目的

2005年、「保育者支援システム構築のための基礎的研究」として、県内の幼稚園・保育所（627園）の園長・保育者を対象としたアンケート調査を実施し、研修の実状と今後の課題を検討し、岐阜県内の保育者の実際を明らかにした。今回は、その継続的研究である。

この調査では、園長も保育者も現状の研修制度では不十分だと感じており、その内容は所属や勤務年数によって若干の違いがあることが分かった。しかし、具体的にどのような研修をどのような時期に行えば保育者にとって有効な意味ある支援となるのかまでは明確にできなかった。意味ある支援は保育者としての成長と密接に関連するもので、その成長のプロセスを明らかにすることによって理解できるのではないかと考える。

そこで今回、養成校を卒業し初めて新任保育者として1年間過ごした過程を、直接面接調査から保育者自身が自己の保育を語る中で見えてくるであろう保育者の成長と援助のあり方を探りたいと考える。

研究方法

昨年度がアンケートによる量的調査であったのに対し、今年度はナラティブ・アプローチを用いて質的研究を試みた。

対象者 新任保育者 8名

*勤務形態

幼稚園：保育所（園）勤務 （1名：7名）

公立：私立保育者 （2名：6名）

男性：女性保育者 （1名：7名）

常勤：非常勤保育者 （5名：2名、*途中退職後非常勤へ1名）

*担当別内訳

未満児担当及び複数の保育者 3名

年少児担当及び2人ペア 3名

年長児担当及び2人ペア 2名 （*内、主に障害児担当1名）

方法 面接（自由度の高い半構造的面接を行う）

- 手順 ① 文書で新任者（2005年度に幼稚園・保育所へ就職した保育者）に面談の依頼をする。
- ② 2006年内で依頼者と保育者の都合のよい日を調整し、来校してもらう。
- ③ 学内で面談を行う。（一人2～3時間程度）
- ④ 当事者より許可をもらって録音し逐語文字化する。
- ⑤ 分析をする。

結果

面接調査の結果、新任保育者としての1年間、彼らは将来を左右するほどの努力と葛藤の中で

日々を過ごしていたことが窺える。

①保育者としての期待と葛藤

4 月当初、不安ながらも誰もが希望を持って子ども達と出会い保育者としての一步を踏み出している。

- ・（5 歳児って決まった時どんな気持ちだった？）一番上っていうのがありますよね、まず。その前に障害児対応っていうのがあって・・・（それを聞いた時どんな気持ち？）まず短大のこと思い出して、あ～授業聞いてなかったなあ大丈夫かな。あとはこれから始まるな～と思って、まあ、とにかく頑張ろうとこの子たちと成長していければと思いました。（その時正直な気持ち、不安と頑張ろうという気持ちどちらが大きかった？）頑張ろうですかね。

しかし、一日一日実践していく中で殆どの保育者は日々の保育に翻弄されている姿が見受けられる。

- ・絵本を読むにしろ、手遊びをするにしろ子どもが楽しくないのにやっていたり、自分でいっぱいいっぱいそれでも子ども達を動かしていかなきゃいけない、何か雰囲気で分かる。
- ・何が何だか分からないままばたばたする、「何やろう何やろう」という感じ、2 歳児初めて、おむつからわからない。（実習でしていない）
- ・要領が悪く教えてもらったこともなかなかの見込めず、忙しい中口調もきつく一度子どもが泣いたことのショックと辛さでいろいろ考えてしまう。日々精一杯、日々を過ごすだけ、1 日速い。何かやっているときは長いが終わると早い、いかんと思いつつ怒ってしまう自分がいる。

また、複数担任の中でそれぞれの環境の違いはあるものの先輩保育者との人間関係の中で悩む姿も見られる。

- ・本当にがむしゃら 聞いても嫌な顔をされるので、自分で本を見てでも、図書館へ行ってでも調べて、他の先生に電話して話を聞いて、で、本当にがむしゃらに、とりあえずやるだけ、（間をおいて） 精一杯でした。
- ・（確かに 3 人仲がいいからその中に入っていくにいくと思うかもしれないけど、何か聞きにくい雰囲気だった？）（ゆっくり） 聞きに・・・いです。それまで先生方と打ち解けるといいうのもなかったですし、私がその頃全然自分が保育者として自信もなかったですし、毎日毎日一杯いっばいで行事の事なんかかまてられないような、子どもたち相手に毎日やっていくのが精一杯だったので、何をしたいのか、そこまで考えが回らなかったの。
- ・月案とか指導案、間違いを指摘されもう一回書いてきてと言われる、どういうふうに違うのかじゃなくて聞くと怒られる、何かつけんどんに返される。新人、言われたことをやるというぐらいしかできない。
- ・私がわからなくても他の 3 人の先生でわかって、どんどんやることはできくじゃないですか？なので、気が付いたらあつ、何か始まった、あつ、何か終わっちゃった。そういうことがあって、先生にしてみれば「聞かなきゃいけないよね」っていう感じで言われることもあったんですけど、

私は何を聞いていいのかという所からわからなかったのです。

その中でも余裕のないまま1か月が過ぎ、月を追うごとに状況はより厳しくなり自分を追いこんでいった保育者もいた。

- ・いろいろ思い悩む、嫌になる。(自分は向いていない、私が休んでも3人の先生で回っていく、自分が足を引っ張っているのではないかなど)
- ・5月末に健康診断、健康相談があり、一度診てもらった(カウンセリングを受ける)ほうが良いといわれ逆に落ち込む。
- ・8～9月 結構つらいピークであった。(帰ってもご飯を食べるのも嫌で食べない)何かおかしくなってしまうそう。うつ病状態で、休みの時など仕事が始まるまで何時間何分単位で計算するようになる。

また、他の保育者の一人は日誌を書くという過程の中で多くの疑問と葛藤を経験している。

- ・一時期本当に辛かった時期がありまして…… 日誌書きを任されるようになったんです。(7月)先生と担任の先生が話し合いをされて、そろそろやってもらったらどうやってことで、任されるようになって (どうでした?) あっ、何か仕事きた! (あっ、うれしさの方が強かった?) 最初はうれしかったですね。やっていくうちに自信がなくなってきました、毎日毎日直されるので、あ～全然だめだな～っていう…… 直してるんですけど、直しをまた直されたりとか、そういうことが続いたので…… 担任の先生が見て、園長先生が見て、それで戻ってくるんですね。で、担任の先生だけじゃなく、残りの3人の先生も目を通されて… いろいろ直しが (みんなから直しが入るの?) この先生の言ってる直しと、この先生の言ってる直しとで板ばさみ状態になってしまって (なるわね～) …… あれはきつかったですね。先生の直しと自分の回答とどう違うんだらうと思う時は正直ありましたね。同じこと言ってるのに何でこの書き方じゃだめなんだろうっていう……。

このように、殆どの保育者は保育を続けていくことに多くの不安を抱えての1年であったようである。

- ・(辞めたいと思ったことはいっぺんもなかったの? この6月って。) ありますよ。逃げたいなって思ったことがありますよ。そりゃ～。(そっか。) 子どもの前ではなかったですね、不思議と今のこの状況をどうしようと考えますが、家に帰ってボーっと、ふと思った時に (少し考えて) 消えたら～みたいなのはありましたけど (笑) (じゃあ、辛かったんだ。) 辛い時は、そりゃありましたよ。(数秒たって) 子どもが辛いときは辛いですね。だって人間相手ですもん。(数秒間が空いて) 辛かったり、大変なこともあるから、まあいいのかなって思うし……。辛いばっかじゃないっていうのがわかってるから……。

②葛藤からの立ち直り

慌ただしく日々を過ごす中で、大きな節目が運動会行事のようである。1年の半が経過し、子どもも新任保育者も園生活や人間関係などに慣れた頃であり、保育者としての自分を客観的に見られるようになったようである。また、この時期にリーダーとして保育（巡回指導）を行い褒めてもらったり、日誌の書き方も少しずつ理解できるようになったり、クラス担当移動に対して、学年主任や担任の先生が配慮してもらっていることがわかる（自分は新人が動くことは当たり前と感じていた。自分に気を使って頂けたことが分かり、何でそのようなことを考えていたのかと思う）など、周りに目が向けられるようになり気持ちが楽になったと自分を振り返っている。子ども達と同じように保育者として自立していく姿が見られる。

- ・運動会練習途中「来年はおらへん」と思いつつ過ごす。運動会で子ども達の姿を見て可愛い、続けていける、子どもと別れるのは寂しいと思う。運動会が終わった辺からちょっと楽になる。
- ・9、10月（運動会過ぎて）1週間交代で任されるようになる。
- ・その見直す時の基準がなんとなくわかってきたのはいつぐらいからですか？（少し考えて）2か月経ったくらいですかね……じゃあ、10月くらいとか？はい、そのくらいからですかね。それまでは日々あったことをずらっと書いていたので……特に日々あったことの中でも、これがあったから自分がどう思ったかなんです。自分がどう思ったとかこれがあったかをいかに簡潔にいかに分かりやすく短い欄の中で、表現するかっていう語彙の少なさがあったり、子どもがどんな事をしたのかというのは一部分の子どもだけじゃだめで、全体の子どもに対してのことを書かなきゃいけない訳ですから……。

③1年間の振り返り

様々な葛藤と努力の中で過ごした彼らの思いは大きい。1年間過ぎた3月の年度末の頃には自分の1年間の足跡を素直に振り返っている。その中には保育者としての知識や経験不足の反省とともに子ども達の成長した姿を見られる喜びも語っている。

- ・一歩引いて子どもとかかわっている。（後から思うと）
- ・週案や1日の保育など事前のシュミレーション不足。
- ・発達や指針などの知識が実際に子ども達と結びついていなくわかっていない。
- ・自分の中でやっぱり上手にプランが立てられなかったり、余裕のなさ、やらないや、やらないやという、そういう余裕のなさが伝わっちゃったりですかね。（それは準備不足ということでもない）材料とかそういうことじゃなくて、きっと気持ちの持ちようというか、伝え方が悪かったり……。うまくとか。ほかの先生がやっぱり複数担なので見ていますし、上の先生が見ていますし。
- ・1年間がむしゃらでわからない。4月当初と3月の終わりが印象深い、真ん中と言われるとどうだったのかよく覚えていない。
- ・大変だったけど辞めたいとは思わなかった。
- ・自分にとって重大、大切な1年、特に年長さんということで卒園式のときなどに振り返る。
- ・2歳の子って、これからこの仕事を続けていけば何回も見ることができるとその子にとって1回、その1年を過ごせたのがすごくうれしい。
- ・一日ごとの喜びもあるが、1年終わったときの大きな喜びを知る。（1年を振り返って面白かった

遊びをしようと子ども達が遊んでいる姿を見たとき「本当に変わってきたな」、「面白かったな」、「1年たってこんなに変わるのを見るのがこんなにうれしいこと」

また、保育者として1年間やり遂げた後の達成感や自分への成長を感じ取っている。保育の流れ、子どもへの対応、園の中の人間関係などが大まかに把握でき、2年目に向けて保育者としてのイメージが自分なりに立てることができてきたようである。

- ・自分が強くなったように感じる。(失敗したとき落ち込んでいるばかりだった)
- ・最初、可愛い可愛い!、大事大事!、さわって転べば壊れてしまう、不安であったのが、余裕をもって見られる。
- ・発達の見立てが具体的に活動へとつながる。
- ・1年目は「何しよう何しよう」であったのが、2年目は「子どもの喜ぶのは何であろう」と考えられることがうれしい。
- ・部屋に入った瞬間、部屋の雰囲気がわかるようにだんだん、少しずつなってくるんですよ。それがこういうことなのかなあと思ったり。
- ・1年間過ぎて何か目処が立つようになった。
- ・余裕ができた。(きついこと、いやなこと言われたとき、自分がこんなに一生懸命頑張っているのにそこまで言わなくてもいいのと思う。今となっては言ってもらったことが、あっそうだったんだって気付けるようになった。下の子を見て振り返る。言ってもらって直せて良かった)

④保育者としての成長の背景

このような保育者としての成長過程において、子ども・保育者・友達などの関わりを無視することができない。

*子ども

- ・子どもながらに力をくれる。
- ・子どもと毎日過ごしていくうちに、1年目で何も知らないし経験も全くないがそれでも子ども達は「先生、先生」とよってきてくれること、何もしてあげれていないけれど「先生、好きやよ」とか言ってきてくれることが素直にうれしい。
- ・辞めたいと思っていた時期でも子どもと離れるのは寂しかった。
- ・自分の話したことに対して子どもがすごく反応してくれる。
- ・失敗するとき、落ち込んでいるときに子どもに助けられる面が多い。(ちょっとしたうれしいことを子どもに言われたとき、疲れていても吹き飛ば、頑張らないといけないと思う)
- ・自分では歯止めをかけてる部分がすごく多くて、保育の世界に入って子どもと触れ合って、初めて自分の手足を伸ばせるようになった。
- ・子どもとずっと過ごしていくうちに、恥ずかしくなってくるんですね、自分が。(ん〜)口では言っても、できていない自分に気付いたりとか……それをなおしながらこのまま保育を続けていけばいいんじゃないかという考えもあるんだろうけど、僕はそうできない人間でして……これはこれしかできないというところがありまして……。

*先輩の保育者

- ・グループリーダーに繰り返して教えてもらう。（「これから育っていくんやで何もわからなくて当然なんやでいいよ。命にかかわることだけしなれば、どれだけでも失敗すればいいよ」、「人の目をきにするくらいだったら、人のわざを盗むことを覚えなさい」、「うるさいと言われるくらい何でも聞きなさい。しつっこいぐらいがちょうどよい」）
- ・最初は、子どもと仲よくなりたい一心で、いいわ、いいわという感じなんですけど、その去年出会った先生に教えられて。（本当単純なことなんですけど、話を聞くときは目を見て話を聞いてほしいとか、いろんな活動のめり張りをつける。今はこれをするとき、この時間はこれしていいよ、好きなことをしてもいいよとか、朝の会はちゃんとみんなでやらなきゃいけないとか、そういう区切りというか、めり張りはつけているように。）
- ・厳しくもあり、優しくもあり、難しいですね。かといって、そんなずうっと仲よしというのもいけないと思いますし。子どもとも、先生と子どもという立場は絶対わきまえて接するようにというふうにその先生に言われて。（考えるように）仲よくなるのは大事だけど、その区切りを越えちゃうと、やっぱり、やりにくいと言ったら言葉が悪いんですけど、なるからというふうに言われて。注意することも大事だけど、それは絶対信頼関係なしでは注意しちゃいけないと言われて。あと注意した後のフォローは絶対しなさいというふうに言われて。ほかのクラス、1人担の先生方のサポートの仕方とか、いろいろ数え切れないんですけど。
- ・主担任と保育が終わったときなどクラスの子どものことを話したりアドバイスを受ける。
- ・みんないい先生なんですよ。本当にいつもニコニコしているし、「大丈夫？」って気を使ってくださる先生たちばかりなので雰囲気があるというか。
- ・先生たちも経験だけで保育をやるのではなく、今いろんな障害の子が増えてきてますよね。だから新しいことをどんどんやっていって、年長児の先生もいい先生だからいっぱい学びなさいよって言われたんですよ。見ててもすごいなって思うんですけど、いつも近くで見てて、何がすごいかって思うのが、経験だけじゃなくて、ほんとと常に悩んでましたもんね。（その先生が？）だから力になれないことがはがゆかったりしたんですけど……。
- ・先生たちも言う事言う先生ばかりですし、ぱぱっと動く先生ばかりだから見てて学べるが多かったというのが大きいですね。（一番どういうところ見てた？今思ってみたら。）やっぱりその時悩んだり考えたりした事が目の前で起こったときの対応とか、そういうところですかね。その都度その都度。（それってすごく吸収できた？）自分でも安心するじゃないですか。あ、こうしたらいいんだっていうふうに1つ解決。完璧な解決ではないですけど、でも安心するじゃないですか。
- ・やっぱり行事とかの前に、先生方といろいろ協力して、あの！ 苦しいですけど、夜も遅くなったり。でも、それで先生方と仲よくなれたり、そういうのが楽しかったなと思って。

*友達

- ・同期の新任の中で話し合ったり聞いてくれたりすることができる。（自分の保育を確実にしたり、ほっとした安心が得られる）
- ・でも行き詰った時に友だちに連絡して「ちょっと聞いてよ」って。（友だちと話すとかホッとする？）しますね。すごい息抜きになったし、すごい安心しましたし、応援してくれる人がいるっていい

なっている……。

- ・違う職場の知り合いのお姉さんとかに、（それは保育士？）違います。違う仕事なんですけど、結構仲の良い人に話を聞いてもらったりして、「私も1年目時そうだったよ」そういう感じで「どこの職場でも一緒だよ〜」ってすごい励まされて、励まされて……。 (笑)
- ・私が気が滅入った時は私が彼女を呼び出して、彼女が何かあった時は私が呼び出されて、数ヶ月に一度程度でその時にばーっとお互い話してスッキリしてっていう……。

その中で、ペアであるクラスリーダーの指導者は新任保育者と保育を進めるにあたっているいろいろな取り組みを行っている。その一つの方法として、クラス運営の仕方があった。

- ・4～5月までは主担任が指導され、その補助を行う。6月からは1か月ごとに主担任と補助担任交代で保育を行う。（自分が少しずつ見えてくる、すごく勉強になる、主と補助の役割をしっかりと理解してほしいとアドバイスを受ける）

また、一人の新任保育者は自らが「記録ノート」を取り入れて、具体的な保育の実践方法や留意する事柄などを記録することを心がけている。

- ・4～7月頃まで振り返りノートを作り記録していく。（ペアの先生が行った参考になる保育を記録する。6月、自分のクラスにいた日数は3日程度、この状況のためその後は書けなく終わる）

⑤新任保育者としての学び

この1年間、新任保育者として彼らは多くのことを学んだようである。自分としては一生懸命保育をしているものの経験者と違う何かを感じ取っていた。

- ・笑顔で話を聞いてるんですけど何が違うんだろう？…… ある時先生に言われたんですね。「言葉掛けの仕方が違うんだよ」（そう？ どういうことやろ？）「何で先生がだめで私だといいかそれは言葉掛けが違うでやよ」ってピシッと言われまして。（どんなふうに違うと言われたの？）「それは勉強やで自分でわかるしかないよ」って言われて、それからどんなふうに声掛けしてみえるかっていうのを、聞くようにして……。
- ・子どもを本当に心から大好きというか、愛してあげるというか、そういうところが違ったのかなと思って。（そうか！でも、あなたも大好きでしょう。） 大好きなんですけど、例えばだっこしてあげたり何か、何ていうんですかね。 スキンシップが多い。
- ・（どうですか？ 振り返ってみて、それって自分にとってどんな意味があったかしら？ ちょっと厳しかったけどやってよかったな〜とか。） やってよかったとは思いますがね。直してくれる先生が身近にいた状態で経験できたっていうことは、次自分がやる時に文章見直さなきゃいけない。自分で見直して先生に見せていたんですけど、見直す時の判断基準というか個々がこうだからダメだと言うのがわかったの、そこは勉強になった部分ですね。
- ・保育者の姿勢と関係（人間性）によって大分違う、先ずそれがないとうまく保育がみんなに回らないし高められない。 人間づきあいが大切なんだって、それがいかに難しいかが分かる。

また、養成校では保育者となるべく学習として教育・保育実習をそれぞれ4週間ずつ体験している。しかし実習とは違うことを感じている。

- ・生活の中の2週間の切り取り（前後の育ちがわからない）
- ・（違って当たり前かもしれないけど。よく実習とは全然違うっていうんだけど、どこがどう違うんだろうね？） やっぱり責任感が違うんでしょうかね。担任となったからには、保護者に説明する責任だとか、子どもを無事に1日過ごさせて、おかえしする。というのがありますし、怪我とかしたりしたら一大事ですし。

⑥保育者の魅力

このように彼らは1年間の様々な経験と葛藤を乗り越えて後、保育職としての魅力を次のように語っている。この思いは今後保育者として歩んでいくためのプロセスとして大切な原点である。この1年間の大変さや辛さを乗り越えた経験があったからこそ感じられたことなのであろう。

- ・保育士という仕事なんですけど、その仕事に笑ったり泣いたりできるというのが、すごい何か、ほかの仕事ではそうないじゃないですか。大笑いしたり。けど、この仕事にはあるので、それがやっぱりいいなと思います。
- ・自分のやっている仕事はやっぱりすごい、これからも続けていきたい。
- ・保育職という仕事は魅力的でずっと続けていきたい。（子どもの成長が目に見えてくる。保育ができるようになってくると、また、幅が広がって、レパートリーも結構あるし、それによって自分で考えて保育ができる。相談しながらでも楽しい、大変な面もあるんですけど、それによってまた一段階として自分も成長できる。）
- ・楽しいですよ、でも、楽しい分大変さもあるし辛い部分もあります。
- ・5歳児の楽しさ 対等じゃないんですけど、話もしっかりできる。～ 先生も一緒になって子ども達と作り上げていくというか教えるだけじゃないというか、～ 子どもと一緒にできていけるのが私はいいのかな～と。

⑦2年目を迎えて

2年目を迎え、一人担任が任されるようになり大変さの中にも少しずつであるが自分の保育を目指して頑張っている姿が伺える。

- ・担任をもって次に喜んでくれることは何だろうと考えてやっていくようになった。
- ・子ども一人ひとり本当に耳を傾けてあげたいけど出来ていない（3歳児2クラスあるため比較してしまう、遅れたりすると気になる） 2年目の3歳児であるが今の子に無理をさせてしまっているような気がする（1年前の自分が訳もわからずがむしゃらで走っていたので去年の3歳児の子がこの時期に何ができていたのか思い出せない、もう1年間出来上がった3歳児を見ている）
- ・4月；目いっぱい 年中、一人担任すごく大変。（計画も大変、一人ですべて回す、年長と年長の対応の仕方の違い、話し方の工夫など） 5～6月；少しずつ慣れてきて保育者としての実感や充実感が生まれる（去年はついていくばかり）

そして、後輩である新任保育者を見て1年前の自分を振り返り、1年先輩として自分のできることを行おうとしている。

- ・3月になったじゃないですか？去年の私と同じようにまた今度入る子が実習に来てるんですね。（来てるの？）その女の子がその先生に対する接し方を見ていたら、“少し前の自分と同じ接し方をしてる”と気づきまして。「わからないことがあったら言ってください」と。（感心したようにほお〜）私、そう言ってくれる人がいなかったの、自分がすごく困ったので、同じことで困ってほしくないなと……・ 親も1年目の時の話をしてくれまして、（仕事の1年目の話を。）で、自分が働いて、新しい人が入って来た時に、親は自分と同じ思いをさせたくないから教えられることは何でも教えるよって言ったってという話をしたんですね。その話を聞いて私もそんなかっこよく言えたらってという想いがあったり。
- ・よくご飯を食べに行って（学年会・年長組会等で食事会）話してくれるより逆によく話す。

また、新任保育者への助言の仕方もあるように願っている。

- ・（今から振り返ってみてね、ピシッと言われたかどうか知らないけど、それは別に当然だなとかね……・）それは今なら思いますね。（今だったらね。あの時の自分は何故ぐさときちゃったんだろう？不安だったし、いろんなことがわからなかったからかな？）そうですね。わからなかったというのが一番だと思いますね。（今だったら平気かもしれないけど、その時、自分に主任さんがどう答えてくれたらうれしかった？どんなふうに言ってくれたらよかったのかな〜。）笑顔で答えてくれたらよかったんですよ。すごい何か嫌そうな顔されて答えられたので、それが一番嫌だったんです。

考察

1年間過ごす中で、殆どの新任保育者はまず目先の保育の活動内容に苦慮していた。毎日のように、いろいろな遊びや製作などすぐ活かせる実技的な活動や方法を求めて図書館や本屋に行っていたという保育者もいた。大学時代にもっと保育を進める教材作りを行ったり、現場の保育者の話を聞いておいたりしたかったとも話している。大学では発達、指導計画、病気の知識などどのようなものか分らず習っていて、もう1度自分で勉強し直すことが大事であり、具体的にそれが結びついたときはうれしいとも話す。そして公開保育など他の保育者の保育を参観できればプラスになると希望していた。

このような新任保育者を支えたり指導したりするためにリーダーである園長や主任保育者等の役割はどのようなものであろうか。そして、新任保育者のための研修はどのような内容のものが必要であろうか。また、われわれ養成校はそれぞれの科目でどのような内容を指導して学生を保育現場に送り出さなければならないだろうか。

平成19年3月、全国社会福祉協議会 全国保育士会は研修カリキュラム「保育士の階層別に求められる専門性」として『保育士の研修体系』を示した。研修を整理するために職場研修のOJT（職務を通じての研修）、OFF-JT（職務を離れての研修）、SDS（自己啓発援助制度）を総合的に捉えたり、それぞれの職場・県・全国レベルによる連携など研修内容の枠組みを階層別にまと

めている。

その中で、初任者の職務上の役割として『「子どもの最善の利益の確保」の理念を理解し、基礎的な保育実践ができる。チームによる保育の中での自分の役割を理解し、支持・助言を受けながら日常的業務を実施する。』とし、研修の目的として『社会人として必要なマナーなどのスキルを身につける。当該保育所での保育理念等を理解する。子どもや保護者を理解し、保育の実践力をつける。』などを挙げている。「新任保育者への助言・指導」としては中堅職員の＜4組織性＞の中に位置づけられている。

また、平成18年3月、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構はより深い専門性を得るために『保育者としての資質向上研修俯瞰図』を編成した。階層別、カテゴリー別研修内容を分け保育学全体を視野に入れた内容としている。この研修体系をもとに、まず初級の保育者（概ね1～3年目）を対象に「自分の保育を見つめ高める」研修内容とし、次第に園内全体に、また、幼児教育界全体への広がりや深まりを期待している。

保育実践現場においてはこの俯瞰図をもとに得意または不得手な分野を自己分析し、点検・評価をする中で研修内容を検討する。自分が今どここのステージにいるかを知り保育実践者として偏りのないものを目指すとしている。養成校においては卒業までに何をどこまで学び、どのような知識・技術が必要であるのかの目安であり、カリキュラム編成や授業改善の資料として利用できるとしている。

このような保育者や園内の資質向上を目指している中で我々は「キャリアとライフサイクルに応じた研修モデル」を提案した。（資料1参照）発達支援職としての保育者の力量形成、他者をケアし発達を支援する保育者の専門性として子ども・保護者・同僚保育者との関係性を軸に捉えた研修体系とした。その中で、新任保育者の相談・助言はキャリア初期（0～5年経験者）の同僚との関係に位置づけている。そして、看護師の研修体系、研修課程は看護師としてのキャリア発達・キャリア形成のプロセスが明確に示しており、保育にもおおいに参考となり、教育課程や保育課程に準ずるものであると考えている。この内容は幼児教育という一部分の子ども達の成長発達を考えるのではなく、思春期までの子ども達の成長発達を見こしての課程でなければならない。その基礎を築く幼児教育の保育者の役割は大きい。新任保育者としては専門的な知識・技術の習得もさることながらそれ以前に一般的社会人としてのルールやマナーの理解（接遇）、園という小集団組織の中での社会性と連携、保育者としての感性やコミュニケーション能力などの資質が求められている。園長が新規採用者にまず望むことは、①園の方針を理解すること、②園の雰囲気になじんでもらうことであった。（注1） また、「経験のある保育者が若い保育者に保育を伝えるには何が必要か」という調査（注2）においては、①保育者同士が話し合う（カンファレンス）環境を作ること、②学生のうちからエピソード記録を書き、それについて皆で話し合うこと（保育を客観的にみる）、③自然に先輩の保育者に相談できる環境を作ることとしている。形式的な研修ではなく日常的に省察できる環境、先輩保育者と若い保育者が一対一のやり取りを丁寧に重ねること（嫌な顔で解らせないこと）が大切としている。

園という組織の中で新人保育者から主任保育者までのそれぞれの役割はあるものの、新任保育者も一人の保育者として自立していかなければならない。そのための理解や援助は必要であろう。

おわりに

今回はナラティブ・アプローチを通して新任保育者の様々な1年間の足取りをたどってきた。語ってもらった8人の新任保育者は皆同じように子どもを相手に保育を行ってきたが、それぞれ一人ひとり皆違った体験をしてきている。その中にはうつ病状態になって苦しんできた保育者や職場を辞め新たな職場を求めた保育者もいた。殆どの保育者は辛い思いを過ごしながらも子どもに助けられたと語っている。職場は逃げ出したくても子どもとは離れたくない、という思いが強く出ていた。子どもの存在は大きく、子どもに励まされた場面は数多くあったようである。彼らの思いは保育者を養成するものとして無視できないものである。新任保育者に対するキャリア教育として実技・実践研修も考えられるが、その中に彼らの思いを受け止め支えられる語りの場も必要ではないだろうか。

注1 2007年 幼稚園・保育園の園長を対象に郵送による質問調査を行う

注2 日本保育学会第60回大会研究発表 寒河江芳江「若い保育者へのアプローチ」

参考文献

- ・田中まさ子・仲野悦子：『保育者を支援するより良い研修をめざして』 みらい 2007
- ・全日本私立幼稚園幼児教育研究機構編：『私立幼稚園の自己評価と解説』 フレーベル館 2006
- ・全国保育士会編：『保育士の研修体系』 「保育士の研修体系」検討特別委員会 2007

謝辞

この研究にあたり、8人の新任保育者の方々に協力を頂き多くの思いを語って頂きました。深く感謝申し上げます。また、この研究は平成18年度 岐阜聖徳学園大学研究助成を受けていることを付記致します。

ライフサイクルにそったキャリア形成及び研修例

資料 1

キャリア発達対象	キャリア発達			
	キャリア初期	キャリア中期	キャリア後期	キャリア成熟期
子ども	<ul style="list-style-type: none">・一人一人を受けとめ理解を深める・子どもとの遊びや学びに参加する・子どもに応じた指導計画を作成する・日常の保育技術を高める・日常の保育環境を整える	<ul style="list-style-type: none">・一人一人の発達課題を明確にする・子どもや子ども集団の短期・長期の発達を見通す・子ども集団のまとまりや充実を支援する・エピソードを記録し、保育に活用する・特別な配慮や教育的支援を必要とする子どもの個別計画を作成する・リスクマネジメントや安全管理を図る	<ul style="list-style-type: none">・保育計画（教育課程）の作成、見直しを行う・連続性を確認する・保育記録、公的文書を作成する・全クラス、園児全員の状態を把握する・保育観や子ども観の問い直しを行う	<ul style="list-style-type: none">・園児の園生活全体の向上を図る・保育理念、目標、保育計画に基づいた保育実践の評価を行う
保護者	<ul style="list-style-type: none">・連絡帳や会話を通して子どもの様子や自己の保育を伝える・連絡帳や会話を通して保護者の気持ちを受け止める・保護者の要望を受けた時、上司に伝える	<ul style="list-style-type: none">・保護者の要望を理解し、解決の手立てを探る・園の行事など保護者との連携方法を考える	<ul style="list-style-type: none">・保護者同士の交流を図る手立てを模索する・苦情解決への対応を行う・保護者組織の活動支援や活性化支援を行う・地域の子育て支援に向向する	<ul style="list-style-type: none">・未就園児の保護者を含めた取り組みを考える・他機関との連携による問題解決の糸口を探る
同僚	<ul style="list-style-type: none">・同期者との協力と仕事分担を行う・キャリア中期者、後期者の助言を理解する・キャリア中期者、後期者の保育技能を吸収する・新任者の相談、助言を行う	<ul style="list-style-type: none">・キャリア初期者に具体的な助言をする	<ul style="list-style-type: none">・キャリア初期、中期の特性に応じた助言や保育指導を行う・研修を企画する・プリセブター研修からの研修計画を作成する	<ul style="list-style-type: none">・保育者のメンターの役割（精神的支援）を果たす・キャリア中、後期者の生活面での相談に応じる・保育者の責任者として保育運営管理に勤める・研修計画に基づいた評価を行う
研修(例)	<ul style="list-style-type: none">・接遇に関する研修・子どもの発達理解に関する研修・保育実技研修・保育実践研修	<ul style="list-style-type: none">・子どもの発達理解に関する研修・ソーシャルワークやグループワークに関する研修・健康、安全管理に関する研修・記録の書き方に関する研修	<ul style="list-style-type: none">・人事考課に関する研修・第三者評価、自己点検に関する研修・メンタルヘルスクエアに関する研修・研修計画、企画に関する研修・苦情解決に関する研修・新しい保育理論に関する研修	<ul style="list-style-type: none">・子育て支援に関する研修・人権、虐待に関する研修・カウンセリング関する研修

出典：「保育者を支援するより良い研修をめざして」みらいP188